

# 疫病退散願う

## 「来年こそは舞えるように」

「企画特集」  
御八日踊り

毎年8月8日に町内一円で  
行われる『御八日踊り』。

新型コロナウイルス感染症  
感染拡大防止のため、今年は  
踊りの奉納が見られません  
でした。

御八日踊りは悪疫退散を  
願い、長年続いてきた長島町  
の伝統行事で、私たちの祖先  
が残してくれた無形民俗文化  
財です。

今号では、御八日踊りに込  
められた人から人へつなが  
る思いや歴史を振り返り、そ  
の魅力を紹介します。



写真中央：城川内郷土芸能保存会によるかね踊り（平成29年・城川内集落堂崎城跡）／写真下1段目：鷹巣種子島踊り保存会の種子島踊り（令和元年・宮之浦港）／写真下2段目：指江子ども育成会の棒踊り（平成30年・城川内集落堂崎城跡）

## コロナに負けず 今できることで精一杯つなぐ

御八日踊りが中止となった  
8月8日、城川内地区では、忠  
兼をまつる若宮神社で関係  
者が集まり、神事が執り行わ  
れました。

大堂充博城川内自治公民  
館長は「疫病を退散させるた  
めの御八日踊りだが、感染防  
止のために中止を決めた。来  
年は舞が奉納できることに期  
待したい」と話しました。



城川内集落の若宮神社で執り行われた神事



同日午後8時ごろ、平尾地区では、約15分  
間にわたり花火が打ち上げられました。

これは、同地区が新型コロナウイルスの  
収束を願い打ち上げたもので、混雑を避け  
るために特定の会場は準備せずに実施。

マスクを着用した家族連れが夜空を彩っ  
た色とりどりの大輪を見上げ、歓声を響か  
せていました。



平尾地区で打ち上げられた花火

## 伝承人

歴史民俗資料館の職員

山崎友喜さんに御八日踊りの  
魅力について伺いました。

### 御八日踊りの魅力

先祖から代々伝えられてきた芸  
能を皆さんの前で元気に舞って、見  
せることが一番の魅力に感じます。

若いころは平尾地区の郷土芸能  
保存会に所属し、種子島踊りの練  
習で毎日汗を流していました。今は  
踊れなくなりましたが、子どもた  
ちが同じ舞をはつらつと踊る姿を  
見ることが何よりもうれしいです。

毎年8月8日に向けて、皆で取り  
組む練習は情報交換の場にもなり  
ました。練習終わりの飲み会では  
笑顔であふれ、団結力が高まった気  
がしました。  
伝統をつなぐことが人と人をつ  
なぎ、地域をつなぐきっかけになっ  
ているのです。



### 御八日踊りの由来

永禄8年（1565年）3月、野田領  
主島津忠兼が城川内の堂崎城主天草  
越前正を攻め滅ぼし、島津領としまし  
たが、甥の出水領主島津義虎に同年旧  
7月8日、出水城で謀殺されました。

その後、長島全土に悪疫が流行した  
ので、島民はこれを忠兼のたたりとし  
て、その霊を慰めるために、若宮神社に  
忠兼の御霊を祀り、毎年旧暦7月8日  
に大祭をして、踊りを奉納すること  
になりました。

踊りは各集落の若者たちによって奉  
納されていましたが、生活改善その他  
の理由で、新暦の8月8日に奉納され  
るようになりました。  
各集落では、かね踊りや棒踊り、手踊  
りなど多彩な舞が伝承されています。



長島町歴史民俗資料館  
職員 山崎友喜さん

### 未来へつなぐために

人口減少や少子高齢化でどの地域  
も踊り手の確保が難しいでしょう。  
これからも御八日踊りを伝承し  
ていくためには地域を超えた協力  
関係が必要です。  
ファンをつくることも大事で町外  
からの観覧客が集

まれば、御八日踊  
りはますます盛り  
上がるでしょう。  
御八日踊りの伝  
統がこれからも続  
くことを願います。

問い合わせ先  
町歴史民俗資料館  
☎(88)5160